

号外はインターネットの福島民報ホームページ (<http://www.minpo.jp/>) でもご覧になれます。

聖火リレー本県スタート



東京五輪・パラリンピックの調整会議。本県からスタートする聖火リレーの日程が決定した=12日午前、東京都港区(代表撮影)

2020年3月26日から 列島時計回り

東京五輪

2020年東京五輪の聖火リレーで47都道府県を巡る日程が12日、決定した。東日本大震災からの「復興五輪」を前面に打ち出し、震災で甚大な被害を受けた本県を同年3月26日にスタートする。一筆書きで日本列島をおおむね時計回りに巡り、7月24日の開会式で東京・国立競技場の聖火台に点火される。聖火リレーの総日数は、移動日を含め121日。

大会組織委員会、東京都、政府など大会準備に関わる組織のトップを集めた調整会議で了承された。吉野正芳復興相(衆院本県5区)は「復興の大きな励みとなる。まさに復興五輪の象徴となる」と歓迎した。

1964年東京五輪と同様に沖縄県を出発点とする案もあったが、組織委は本県を選んだ理由として被災地の中でも避難生活を送る人が多い点などを挙げ「困難を乗り越える力や不屈の精神を全国に受け継いでいく聖火リレーにしたい」と説明した。

序盤の3、4月は比較的温暖な地域を目指し、本県から本州を南下し、大阪府から四国、愛媛県から九州に渡る。九州の東側を南に下って沖縄県で折り返し、九州の西側を北に向かう。その後、中国地方を経て日本海側

を北上。北海道から岩手県、宮城県を通過した後、静岡県に飛び、終盤は東京の近隣県を駆け抜ける。

具体的なルートは、今

「復興五輪」重視

注目された2020年東京五輪の聖火リレーのスタート地点は、東日本大震災の被災地とするか、1964年東京五輪と同じように沖縄県とするかの事実上の2択だった。本県から始めるルートに決めたのは、大会組織委員会が「復興五輪」の理念を重視した結果だった。

国際オリンピック委員会(IOC)が定める「一筆書き」で47都道府県を巡るには、沖縄県を出発して日本列島を北上するルートが運営上は「合理的」(組織委幹部)だった。

回の日程を基に各都道府県の実行委員会が策定する。組織委がこれを取りまとめ、国際オリンピック委員会(IOC)の承認を得た上で来年の春から夏にかけて公表する。ギリシャで採火した聖火は、リレーを実施する前に「復興の火」として岩手、宮城、福島の3県で展示する計画がある。

た。リレーは20年3月に始まることから、桜前線を追うように設定する方が、寒さや雪を避けられるメリットもあった。

しかし組織委は「復興五輪という趣旨、位置付けを強く意識して検討を進めてきた」という。近年、大規模地震や豪雨など、日本各地で多くの災害に見舞われ、「被災地」の定義も議論されたが、招致時に開催意義の一つに掲げた「東日本大震災からの復興」を最優先とし、東京電力福島第一原発事故もあった本県を出発点とした。